河北郡市医師会報

わかば会誌

第12号
2019.6

河北郡市医師会
かほく市高松テ3番地2号
TEL 076-281-7270
FAX 076-281-7271

巻頭言

5年間をふりかえって

河北中央病院 院長　寺崎 修一

令和最初のわかば会誌の巻頭言という身に余る機会をいただきました。喜んで！とお引き受けしたものの、何を書いたものかと悩んでいたところ、病院長としての思いを書けばよろしいと伺い、乱筆乱文の予感がたっぷりですが御容赦ください。

平成26年春に赴任してからはや５年が経ちました。前任地での消化器部長から突然の異動で、はたして院長職が務まるだろうかと不安のなか、温かく迎えていただいた河北郡市医師会のみなさまのおかげでなんとか続けられています。

超高齢社会の地域のニーズに応えるため、取り組んできたことを振り返ってみたいと思います。赴任当時、気の長いお年寄りしか待てないほど外来待ち時間が長く、地域連携は乏しく、救急は断りがち、およそ地域のみなさまからの信頼が失われている様子にみえました。

1. 病院の役割の再確認

まず、理念を見直しました。地域の小規模病院として、果たすべき役割を職員と共有するためです。外来医療では健康寿命の延伸、すなわち生活習慣病の管理による重症化予防、要介護予防、そして早世予防のためのがん検診に力を注ぐ。入院医療では、高齢者の体調不良のサブアキュート入院、他病院で治療後の転院リハビリを受け入れるなど、地域包括ケアシステムを支えることを主たる役割としました。

2. 連携の構築

地域の医療介護職のみなさまと顔の見える関係を築きたく、機会あるごとに集会に参加しました。河北郡市地区には同世代の先生が多数おられ、懇親の席はひとときの楽しみでもありました。北谷秀樹前会長、由雄裕之会長（当時副会長）はじめ理事のみなさまの温かいご支援をいただき、初年度秋より河北中央医療連携の会を始めることができました。昨年秋から始めた開放病床にはご紹介入院の患者様の共同指導にお忙しいなかご来院いただき、大変感謝いたしております。

3. スタッフの拡充

入退院の要である医療サービス室、高齢者医療に必須であるリハビリ体制を強化しました。当時３人だったリハビリ職員は、現在15人になりました。さらに薬剤師、管理栄養士、介護福祉士らの専門職を増員しました。医師、看護師らとともに多職種チームが外来では生活習慣病の重症化予防、病棟では高齢者医療の質を高めるさまざまな活動をしております。

4. 広報活動

広報誌、ホームページのリニューアルに加えて、最近になり出前講座のご依頼をいただけるようになりました。昨年度は津幡町で12回、医師・看護師・管理栄養士・リハビリ療法士らが健康に関連するお話や体操などを行い、好評をいただいています。少しずつですが、住民のみなさまにもアピールができてきているように思います。

5. 人材育成

振り返ると、危機対応という言い訳をしつつ、多くのことを自分で決めて、自分で現場実践をしてきたように思います。山本五十六の有名な語録に「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、誉めてやらねば、人は動かじ」がありますが、「やってみせ」どまりが多かったわけです。語録は以下に続きます。「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず」「やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」。

院内の今年のテーマは「一人ひとりが生き生きと活躍できる職場づくり」です。職員のやりがいが、地域のみなさまの満足度につながると考えています。

今後も地域で困っている方に手を差し伸べる医療を続けて参りたいと思います。あらためて、ご支援、ご指導いただいた河北郡市医師会のみなさま、頑張ってくれている職員に感謝して、筆をおきたいと思います。

ご紹介

知命を過ぎた新人の決意

金沢医科大学 一般・消化器外科 臨床教授
高村　博之

はじめまして、４月に金沢医科大学 一般・消化器外科に着任いたしました高村博之と申します。平成２年に金沢大学を卒業後、同大学の旧第２外科（消化器･腫瘍･再生外科）へ入局し、29年間にわたって消化器外科医として研鑽を積んでまいりました。平成という時代とともに医師として成長し、既に知命を過ぎた身ではありますが、令和の幕開けと時を同じくして高島茂樹理事長に新たなチャレンジの場を与えていただいたことに、身の引き締まる思いでおります。

河北郡市医師会には、同門の大先輩で叙勲を受けられた山崎軍治先生とそのご子息で同じく同門の圭介先生がおられますが、圭介先生とその奥様と一緒に肝移植患者様や重症患者様の術後管理をしていたことが懐かしく思い起こされます。温厚で誠実な人柄はホームドクターとして地域の人々に大いに信頼されているに相違ありません。

また、大学までサッカー部に所属しておりましたが、河北郡市医師会には大学サッカー部の先輩である由雄祐之先生がおられ、わかば会誌で昔と変わらぬお姿を拝見し、青春時代を懐かしんでおります。さらに、2018-2019年のベスト・ドクターに選出された藤田拓也先生は大学の同期で、持ち前の口八丁手八丁で患者様を虜にしているに相違ありません。

前任地の金沢大学では、肝移植を含めた肝胆膵領域の外科治療や門脈圧亢進症の外科治療、後腹膜肉腫や下大静脈腫瘍栓・他臓器浸潤を伴う腎・副腎腫瘍の外科治療を担当しておりました。また腹腔鏡下肝切除手技をいち早く導入し、後進の育成と普及に努めてまいりました。今後も小坂建夫教授の下で河北郡市医師会の先生方のお役に立てるよう精一杯精進する所存ですので、何卒宜しくお願い申し上げます。また、何事にも真摯で労を惜しまず、たゆまぬ向上心を備えた若手教室員が皆様のお役に立てる一流の外科医に成長きるよう尽力する所存です。金沢大学ではご紹介いただいてから手術を受けていただくまでに相当な待ち時間があるため、患者様に多大なご迷惑をおかけしておりましたが、当大学では迅速に対応できますので、何なりとご用命いただければと存じます。

当大学には同門の大先輩である高島茂樹理事長や小坂建夫教授、野口昌邦教授（乳腺・内分泌外科）をはじめ、上田順彦教授、藤田秀人准教授や乳腺・内分泌外科の井口雅史准教授など、尊敬する先輩・後輩の多士済々が顔をそろえ、そのスタッフの充実ぶりは金沢大学に勝るとも劣らないと自負しております。さらに次世代のがん治療を担う当大学の遺伝子医療センターでは学生時代から白眉な存在であった同期の新井田要教授がセンター長を務めており、ことのほか心強く感じております。

取り留めのない文面になったことをお詫び申し上げるとともに、稿を終えるにあたり河北郡市医師会の諸先生方とスタッフおよびそのご家族のますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

会員寄稿

京都・奈良旅行記

金原皮膚科医院 院長　金原　拓郎

昔から古いお寺や仏像、神社に興味があるものの最近はご無沙汰でした。２年前に娘が自由研究で仏像の研究をした際に仏像の写真集を購入し、ちらちら見るようになりました。それを思い出し無性に仏像が観たくなり京都、奈良へ行くことにしました。

１日目。まず宇治へ行き平等院鳳凰堂へ行きました。今回のお目当ては２年前に入れなかった本堂(鳳凰堂内)へ入り阿弥陀如来像を直に観ることです。阿弥陀如来像は立派でした。厳かですが優しいお顔です。ただ建物自体が国宝のため橋の欄干や柱一本も触ることは許されず少し緊張しました。次に京都市内へ戻り歩きで散策です。まずは六波羅蜜寺へ。ここは平家ゆかりのお寺だそうで平家が隆盛の頃は平家一門の邸館が栄え、その数5200余りに及んだとのことです。昔はそんな広大な土地だったそうですが現在は本当に街中の小さなお寺です。続きまして大阪冬の陣のきっけかけとなった方広寺の梵鐘を観に行きました。「国家安康」、「君臣豊楽」と書かれた鐘です。大きさは高さ4.2m、外形2.8m、厚さ0.27m、重さは82.7トンです。第一印象は「でかっ！！」です。皆さんも本物を観たら分かります。鐘が大きすぎて文字がめちゃくちゃ小さく見えるのですが（白いマーカーで囲ってあります)、よくあんな小さな文字に難癖をつけたなという印象です。もともとは19メールの仏像があった寺なので梵鐘も巨大です。また歩きまして三十三間堂です。今年は何十年かぶりにすべての仏像（1001体）が揃った当たり年です。いつも数体どこかの博物館へ出張しています。

２日目は奈良へ行き興福寺へ。今回の旅行の1、2を争

ご紹介

石川にて小児心臓外科を再開するにあたって

金沢医科大学 小児心臓血管外科長
安藤　誠

先天性心疾患は出生児の100人に約一人発症します。心房中隔欠損症や心室中隔欠損症といった軽症例から、ファロー四徴症、さらに大血管転位症や左心低形成症候群といった重症例まで様々な疾患が存在しますが、小児医療に携わる先生方にとって決して稀ではない疾患群と言えます。石川県には昨年度、県内にて小児心臓手術を行うことができる施設がありませんでした。そのため、患者様は他府県へと転送されていました。小児心臓病患者の遠隔転送はリスクが高く、途中で状態が悪化する患者が頻発したと思います。家族の負担も大きく、入院と外来通院を遠隔地でおこなうため、仕事やきょうだいの子育てへの影響も強かったと思います。金沢医科大学小児心臓血管外科の稼働により、石川県とその近隣地域の心臓病を持つお子様とそのご家族のご負担が軽減し、安心して治療に専念していただけるようになればと考えています。

昨今の先天性心疾患（CHD）外科治療を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。出生率の低下に加え、新型出生前診断（NIPT）の施設認可基準が引き下げられて一般産院に拡大し、染色異常児の出生が制限される可能性があります。さらに22週前の胎児エコーを積極的に施行している産科施設においては、複雑心奇形患児の堕胎をめぐる倫理的問題と取り組む機会がより一層広がります。無制限にCHD患児が出生していた過去とは全く異なる状況にてその診療に関わる産科医、小児科医そして外科医がより一層広い知見を持って患児と家族の最大幸福を考えていく必要があると言えます。

また、CHDは成人期へキャリーオーバーする小児慢性疾患の代表であり、従来学童期までの心疾患が主な治療対象であった「小児心臓外科」は、成人先天性心疾患（ACHD）手術へも広く対応する「小児成育心臓外科」であることがより強く求められるようになっています。ACHD推定患者数は現在50万人であり、今後も年間１万人程度増すると予想されます。すなわち、小児心臓病（出生数：年間90万人）、弁膜症（推定患者数：80万人）、虚血性心疾患（200万人）と並び、成人先天性心疾患（小児成育心臓）外科が今後心臓外科の一分野として主要な地位を占めるようになると予想されます。一方、CHD手術の生存率が急上昇した1970代より50年が経過し、ACHD患者群が壮年期・老年期に入っていく今後、同手術に対応するためには小児・成人心臓外科両方を包括した診療体制が必要となります。その意味で、今後産科、小児科、さらに他の小児臓器分野の医師と知識共有をできる場として、さらに成人手術の経験値を増加できる場として大学病院の役割はますます重くなります。

小児心臓外科は特殊性の高い専門領域であり、体制構築には一般的に10年は必要であると言われる分野です。そのためにも大学内にとどまらず、地域の医療従事者の方々のご協力を仰ぎながら、その体制作りに懸命に取り組んでいくつもりでおりますので、何卒よろしくお願いいたします。

う目的である「乾漆八部衆立像」の阿修羅像を観に行きました。これは150cmくらいの身長なのに重さは10kgもないそうです。簡単に言うと麻布と漆でつくった張りぼてです。興福寺は何度も火事にあったのですがそのたびにお坊さんが小脇に抱えてホイホイと運んだそうです。その軽さのおかげで８部衆は１体を残しほとんど無傷の状態です。もう一つは「仏頭」です。昔社会の教科書でみた１m大の頭部だけのものです。中学生のころ一度見てみたいと思っていたので感慨深かったです。次に法隆寺へ。これはもう本当に田舎の大きなお寺です。仏像はもちろん有名なものが多いのですが広大な敷地を歩きまくり疲れた印象のみでした（笑）。壁画が焼失せずきれいなまま残っていればもっと楽しい所だと思います（泣）。2021年には焼けた壁画ですが公開されるかもしれません。

3日目はまず雨の銀閣寺へ。わびさびがしみます（わかってませんけど）。次に広隆寺へ。国宝第一号の弥勒菩薩半跏思惟像を観に行きました。昔、大学生が台にのって指を折ったそうですがそれも許してくれそうな穏やかなお顔をしています。とにかく静かなところです。またまた反対側へ戻り今度は清水寺へ。まだ改修中なのですが今回の旅行で一番の人出でした。ただただ歩くのみです。

４日目は東寺へ。五重の塔をみて仏像のところへ。くしくも東京の博物館へ15体も出張中のため館内の仏像は少なかったのですが２年前も来たのでそんながっかりはしません。それどころか国宝の仏像をビデオでどう解体してどう運ぶかを早送りで見せてもらい面白かったです。あんなに厳かな仏像が、大人数人で「よいしょっ」と持ち上げられてすぽっと台座と分けられる様を見ると、やはり物だなと思ってしまいました（不謹慎ですが）。まあよく歩きました。また学会で京都に行くことがあればもっと探ってみたいと思います。つまらない文にお付き合い頂きましてありがとうございました。

河北郡市医師会・羽咋郡市医師会

懇親ゴルフコンペ

今年も標記のコンペが令和元年６月２日に金沢カントリークラブで開催されました。羽咋郡市医師会からは松沼先生と平場先生のご参加を戴きました。また、金沢医科大学病院からは地域医療連携事務課の奈良崎さんも紅一点で参加していただきました。今回は皆さんの調子が良かったのか、はたまた技術がアップしたのか、絶妙なニアピン合戦や、ロングホールでの２オンなどのスーパーショットが見られました。それに伴ってかスコアも好成績の方がたくさんおられました。参加者15名中、80台が６名、そして、100越えは３名だけというのも素晴らしい結果でした。優勝はダブルペリアを有効に使われた紺谷先生が昨年に続いて獲得されました。ダブルペリアは外れたもののベストグロスは久保先生でした。皆さまお疲れ様でした。秋には金沢医大教授会との懇親ゴルフコンペが開催されます。多数のご参加をお待ちしております。

河北郡市医師会の主な行事

（平成31年１月～令和元年の６月末まで）

１．理事会・総会

平成３１年　１月１６日(水)　第１０回理事会
平成３１年　１月１９日(土)　平成３０年度新年会「勝崎館」
平成３１年　２月２０日(水)　第１１回理事会
平成３１年　３月２０日(水)　第１２回理事会
平成３１年　４月１７日(水)　第１回理事会
令和　元年　５月１５日(水)　第２回理事会
令和　元年　６月　１日(土)　令和元年度定時総会・懇親会「河北亭」
令和　元年　６月１９日(水)　第３回理事会

２．学術研修会

【河北郡市医師会学術講習会】

平成３１年３月１３日(水)
演題：「花粉症の治療～最近のトレンド～」
講師：金沢医科大学　耳鼻咽喉科
教授　三輪 高喜　先生

平成３１年４月１０日(水)
演題：①「遺伝カウンセリングの実際と問題点」
講師：金沢医科大学病院　ゲノム医療センター
センター長　新井田 要　先生
演題：②「ファブリー病
診断治療のためのエビデンス」
講師：東京慈恵会医科大学　小児科学講座
講師　小林 正久　先生

令和元年５月８日(水)
演題：「当院における脊椎疾患とその治療の現在
～末梢性神経障害性疼痛治療薬の役割と期待～」
講師：金沢医科大学　整形外科
講師　川口 真史　先生

令和元年６月１２日(水)
演題：「高齢者のトータルマネージメントを考える
～フレイルと消化器症状～」
講師：順天堂大学医学部附属
順天堂東京江東高齢者医療センター
消化器内科　科長　浅岡 大介　先生

【河北郡市医師会　産業医研修会・生涯教育研修会】

平成３１年２月２８日(木)
演題：「産業医の職務－私がしていること」
講師：㈳石川勤労者医療協会　金沢城北病院
健康支援センター所長　服部 真　先生

【金沢医科大学病院学術交流会】

令和元年６月１３日(木)
演題：「小児の便にまつわる最近の話題」
講師：金沢医科大学病院　小児外科
特任教授　岡島 英明　先生

３．会員親睦会

令和元年６月２日(日)　河北郡市医師会ゴルフ親睦会

編集後記

令和元年になりました。わかば会誌12号が皆さまのお手元に届くころは令和フィーバーが落ちついている頃でしょうか。今回も当会誌へのご寄稿に皆さま、快く応じて下さり、御礼申し上げます。本号のお二方もそうですが、金沢医科大学には新任の部科長になられた方が多数おられます。ある意味、新旧交代がすすんでいるようです。退官された先生方、お疲れ様でした。時代の流れを感じるとともに、医療の進歩も実感致します。機会があればニューフェイスの先生方にも本会誌にご登場をお願いしたいと思います。

会誌編集委員
石倉　直敬
紺井　一郎
沖野　惣一
藤田　拓也
木嶋　保
金原　拓郎